予防接種の同時接種について

同時接種の必要性・安全性について

日本の赤ちゃんが 1 歳前に接種する定期のワクチンは、6 種類になり、接種回数は 12 回以上にもなります。多数のワクチンを 1 本ずつ受けていては接種が遅れがちになるため、確実に VPD(ワクチンで防げる病気)を予防するためにも同時接種をお勧めしております。



「小さな赤ちゃんに複数のワクチンをして大丈夫?」

同時接種について、現在わかっていることとして以下のことが挙げられます。

1) 複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンに対する有効性について、お互いのワクチンによる干渉はありません

2) 複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれの有害事象、副反応の頻度が上がることはありません

3) 同時接種において、接種できるワクチン(生ワクチンを含む)の本数に原則制限はありません

以上より、日本小児学会はワクチンの同時接種は、日本の子どもたちをワクチンで予防できる病気から守るために必要な医療行為であるとしています。



同時接種をなぜすすめているの?

子どもは免疫力が弱く子どもがかかる感染症には重い病気が多くあります。かかってしまうと最近の医学でも良い治療法のない病気もいまだにあります。0 歳の早い時期に接種するワクチンは、2~3 回接種しないと確実な免疫ができません。ワクチンを 1 種類ずつ接種していては、免疫がつくまでにたいへん時間がかかります。安全性も単独接種と変わらないので、ワクチンの効果を最大限に発揮させるために世界中で同時接種が行われています。



ワクチンデビューは、注射 3 本と飲むワクチン 1 本

5 種混合 ＋ 小児肺炎球菌 ＋ B 型肝炎 ＋ ロタワクチン

初めての予防接種で 4 種類のワクチンを受けるのはなぜ?

5 種混合と小児肺炎球菌ワクチンは細菌性髄膜炎を予防します。細菌性髄膜炎は生後 6 ヵ月を過ぎるとかかる子どもが増えてきます。なのでそれまでに初回 3 回の接種を済ませておくことが大切です。5 種混合ワクチンで予防する百日せきは低月齢の赤ちゃんがかかると重症化しやすいので、できるだけ早い接種をおすすめします。B 型肝炎は母子感染の心配がないお子様であれば生後 2 ヵ月の接種をおすすめしており、ロタウイルス感染症も生後 5~6 ヵ月から増えるので生後 2 ヵ月の初日から接種を始めます。2 回接種の 1 価ワクチン(ロタリックス)では生後 24 週 0 日、3 回接種の 5 価ワクチン(ロタテック)では生後 28 週 0 日までに 2 回目を完了しなければなりません。

このように初めて接種で、4 種類もワクチンを受けるにはそれぞれ理由があります。

参照:日本小児科学会　予防接種　感染対策委員会/同時接種の必要性・安全性 - Know VPD!

ハレのこどもクリニック